



(上から時計回りに) 奄美群島で絶滅が危惧されているシノビドジョウマカこしま水族館で生まれたシノビドジョウの稚魚▽シノビドジョウが生息する奄美群島の池

シノビドジョウ

学名 *Misgurnus sp*

- 分類 コイ目ドジョウ科ドジョウ属
- 大きさ 10センチ
- 分布 奄美群島。西表島にもいるが、人間が持ち込んだと考えられている
- 食べ物 水中の泥の中にいる水生昆虫やイトミミズ、ミジンコなどの小動物
- 特徴 九州にいるドジョウに非常に似ているが、口ひげが長いことや尾びれの後端がとがるなどの特徴がある。奄美群島では池や田んぼ、用水路など生息できる環境が少なくなったため数を減らし、絶滅が心配される。憶病で物かげに隠れる性質が強く、また水槽ではミズカビ病などの病気にかかりやすく、飼育が難しい面がある。

奄美群島で独自の進化

全国の池や用水路などで見られるドジョウは、研究が進むにつれて、地域によって種類が違ふことが分かってきました。世界自然遺産に登録された奄美群島のドジョウも、九州や沖縄のものととは違ふ固有の種類だと分かりました。奄美のドジョウはとても憶病な性格です。水槽でも、人が近づくと、慌てて物かげに隠れてしまうため、めった

に姿を見ることができません。隠れてばかりいることや、長い年月、奄美群島で忍ぶように生き延びたことから「シノビドジョウ」という名前が付き、研究が続いています。奄美群島は、数百万年前に大陸や他の地域から切り離されたと考えられます。ドジョウは自力で海を渡ること

ができません。アミノクロウサギやアマミシシカワガエルなどと同様に、気の遠くなるような時間の中で奄美の島々でひっそりと生き延びて、独自の進化を遂げたのです。しかし近年、急速に姿を消しつつあります。田んぼや用水路がサトウキビ畑になり、安心してくらせる場所がなくなってしまったのです。

また、外来種のドジョウが増えていく島もあります。現在、シノビドジョウが生き残る島は一つだけ。その中でもくく限られた場所だけです。

かこしま水族館では研究者と協力して、シノビドジョウを増やす取り組みをしています。水族館で生まれたシノビドジョウがいつか故郷の島々に帰ることを願っています。(展示課魚類展示係主任・宮崎直)

おもしろ生き物図鑑
かこしま水族館から